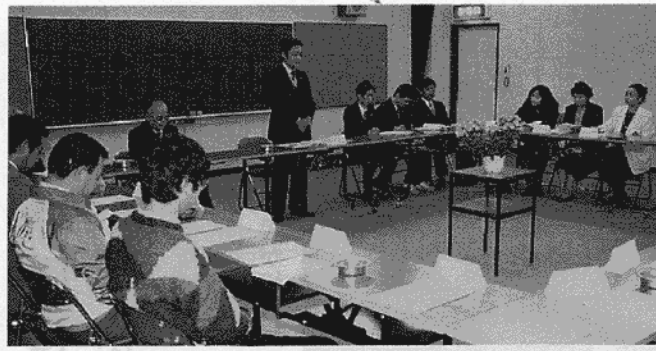


国際交流化の時代

海外派遣の体験発表

十一月五日、中央公民館で、日光市海外等派遣友の会（福田孝一会長）の総会が開かれました。

国・県・市が協力して、毎年、青年や婦人を海外等に研修派遣していますが、同友の会はその経験者で組織され、派遣後、経験を生かし地域に貢献しようと、昨年九月に発



足したものです。

今年度から青年だけでなく、婦人も加わり、名称も「日光市青年海外等派遣者友の会」から「日光市海外等派遣者友の会」に変更しました。

総会では、これからの事業計画などを話し合ったあと研修に入り、昭和六十二年度栃木県婦人の海外派遣団員として、イギリス、スウェーデン、デンマークを視察研修してきた御幸町の佐々木和子さん（主婦）から「海外にみる婦人の活動」と題し、ビデオをまじえての体験談が発表されました。

体験談では、各国における婦人の活動や、福祉水準の高さなどが述べられ、また、反面、高福祉政策が国の大きな負担となっていることや、福祉政策に甘んじ、やる気をなくしている人々の問題なども指摘し、参加者たちは熱心に聞き入っていました。

婦人海外派遣団に参加して

— 佐々木和子 —
「高福祉社会の女性たち」

このたび、栃木県婦人の海外研修団の一員として、イギリス、スウェーデン、デンマークを訪問してまいりました。高福祉と共に、女性の地位の確立も大変高い国々でありますので、十一か国の研修先を通して、女性の社会参加やその役割について勉強してまいりました。

成人学校の発祥地であるイギリスでは、実に多くの（異民族をも含めた）女性たちが成人学校でさまざまなことを勉強しながら、フルタイム、またはパートタイムで仕事をしております。

その賃金や地位の格差は全くなく、家事における分担も日本よりだいぶ進んでいるようでした。

ズウェーデンでは、若い女性たちが整った労働条件の中で、本人のやる気しだいで重要なポストにつくことができ、学歴も関係なく、育児に関しても男女が平等に休暇を取れるようになっていきます。

しかし、実際には男性が仕事に、女性が家庭に力を入れる率が、まだ高いということでした。また、未婚者と既婚者の割合を質問しましたら、そのようなプライベートなデータは取ったことがないと一笑されました。

デンマーク婦人協会では、



女性に投票しましょうという運動を展開し、今では国会議員の三〇パーセントを女性で占めています。

アル中患者等を社会に再復帰させるためのリハビリ施設では、福祉のグレードの高さを痛感すると共に、激増するアル中患者や失業者問題等、高福祉社会の裏面をかいま見たような気もいたしました。法的な枠組ができて、その中で自己実現を図るのは、究極的にはやはり本人の意識の問題ではないかということを実感いたしました。

